

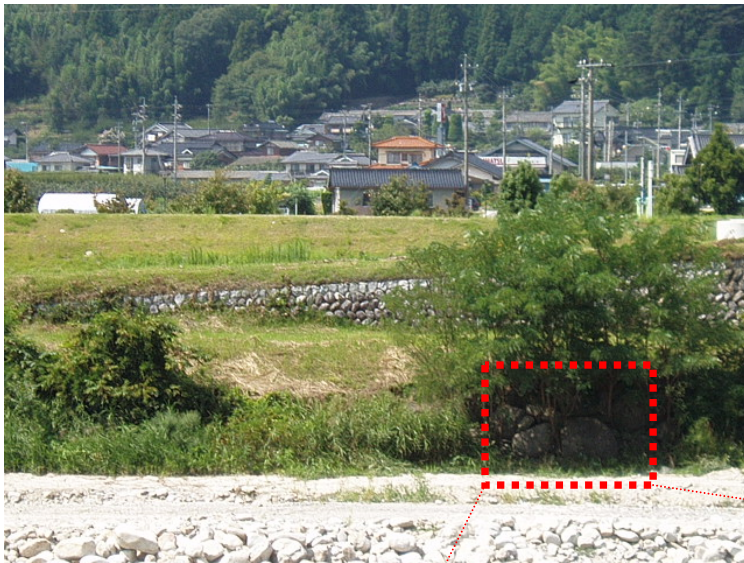
## 11 理兵衛堤防 (りへいていぼう)

所在地: 上伊那郡中川村片桐田島

築造: 寛永3年(1750年)~文化5年(1808年)

「暴れ天竜」の異名をとる天竜川は古来より氾濫を繰り返し、その度に流域の農地は大きな被害を受けてきました。江戸時代中期、水害に苦しむ地域を救おうと当時地区の名主であった松村家が親子三代(理兵衛忠欣(ただとし)、理兵衛常邑(つねむら)、理兵衛忠良(ただよし))が私財を投げ打ち造った堤防です。度重なる崩壊がありましたが、58年もの歳月をかけて遂に完成した堤防は、天竜川の本流と前沢川の流水を一緒に対岸側に押し返す仕組みでこれにより一千石の農地を確保したといわれています。

理兵衛堤防は築堤以来約200年の間、天竜川流域の農地を守りその役割を担ってきましたが、天竜川の改修工事によりその役目を終えようとしています。その歴史と功績を後世に残すべく、理兵衛堤防を近くの農村公園に移設する計画です。



天の中川橋より撮影

拡大写真



石積みによる堤防